

地域の実情に応じて、小さな拠点づくり・地域運営組織の取組として展開すべきもの、展開したいものについて地域住民で議論を行い、必要な取組の絞り込みや具体的な進め方について話し合うことを通して、担い手の確保と意識・意思の統一化を図り、“みんなの思い”を原動力に「じぶんごと化」を促します。

### 留意事項

- 「住民ワークショップ」が一般化しつつある中で地域住民の中にも経験者が増えています。しかしながら、その経験を通して、「ワークショップ形式ではいろんなことを言えるが、何も決まらないし形にならない」、「この前のワークショップでも課題を書いたのにまた書くのか」など、“ワークショップ疲れ”のある地域も見られます。
- このため、やみくもに“ワークショップを通して意識を高めたい”として課題や取組のアイデアを求めるだけでなく、「今回のワークショップの結果として何を得たいか、目標は何か」を明確に設定したうえで、参加者が「じぶんごと」として捉え、取組の実施につなげていくよう、プログラムや雰囲気づくりを努力することが重要となります。

## ステップ 1

### 会議の場の確保と出席者への呼びかけ

話し合いを行う場所としては、市民活動センターや公民館、集会所が一般的によく選定されますが、参加してほしい地域住民の生活スタイルや志向性に歩み寄る形で、会議の場自体を「今後の小さな拠点の可能性」をにらんで選定してみることも一案です。

また、会議出席の呼びかけについても、自治体・町内会や回覧を通した呼び掛けのみならず、SNSを使った発信や直接訪問による勧誘など、多様な方法もチャレンジしてみてもいかがでしょうか。

## ステップ 2

### 自由に意見が言える環境づくり（アイスブレイク）

会議に出席しても、若者や女性などはなかなか意見を言い出しにくい環境も散見されます。このため、机のレイアウトやグループ分け、会議冒頭での雰囲気づくりなど、意見を言いやすい環境を構築しておくことが重要です。

## ステップ 3

### 「じぶんごと」を意識した議論の促進

ワークショップでは、一般的に自由に思いついた意見をたくさん出してもらうことが重要ですが、今般の「地域運営組織・小さな拠点」の実現に向けては、「じぶんごと」として捉えたうえでのアイデアや要望といった意見が求められます。

このため、単に「地域の課題や取組のアイデア」について発言してもらうだけでなく、「じぶんごと」として捉えたうえでの発言を促すプログラムや、「みんなで取り組むべきこと」を考えてもらうよう促すプログラムの工夫が重要です。

## ステップ 1

## 会議の場の確保と出席者への呼びかけ

会議を行う場所としては、市民活動センターや公民館、集会所が一般的によく選定されますが、参加してほしい地域住民の生活スタイルや志向性に歩み寄る形で、会議の場自体を「今後の小さな拠点の可能性」を意図して選んでみるのも一案です。

また、会議出席の呼びかけについても、自治体・町内会や回覧を通した呼び掛けのみならず、SNS を使った発信や直接訪問による勧誘など、多様な方法にもチャレンジしてみてもいいでしょうか。

### 取組例① 若者や女性が集いやすいカフェで開催

【埼玉県和光市内のカフェ「大人の秘密基地 arcoiris」】

若者や女性らを地域のまちづくりに巻き込むため、カフェを会場に平日の昼前に時間を設定し、地域経済分析システム（RESAS）に基づく研修会が開かれました。市内の人口や観光の動向について情報共有し、テーブルごとにお茶を飲みながらデータを見て活動のアイデアについて自由に発言することができ、まちづくりに対する意欲が高まりました。



### 取組例② SNS を用いた研修会の呼び掛け

地縁団体のみならず、地域運営組織・小さな拠点に関心のある市民や団体に幅広く参加を呼び掛けるため facebook のカレンダー機能を用い、会議の呼び掛けを行うとともに、参加予定者や興味のある人を公開することで、参加者の広がりを持たせていきました。

この他、中間支援者や自治体、地域の団体が銘々に発信しており、中には、市町村外から2時間かけて参加される例もありました。



### 取組例③ 気軽な参加を呼びかけるちらし

【山形市南沼原地域：(特)山形の公益活動を応援する会・アミル】

地縁団体や福祉といった既存の枠組みとしての会議ではなく、自由に参加してもらって一緒に考えてみたい、との考えから、物腰柔らかいチラシが作成され、多様な住民が集まりました。



会議に出席しても、若者や女性などはなかなか意見を言い出しにくい環境も散見されます。このため、机のレイアウトやグループ分け、会議冒頭での雰囲気づくりなど、意見を言いやすい環境にしておくことも重要です。参加者の立場から、意見を言いやすい環境として求められる事項についてあらかじめ展開することを検討してみましょう。

### 取組例① 小さな拠点と各集落拠点のネットワーク

#### を意識した会場づくり 【岐阜県<sup>げろ</sup>下呂市<sup>かなやま</sup>金山地域】

既にある道の駅を拠点としつつ各集落で小さな拠点を形成してネットワーク化していくことを意図して、放射状にテーブルを配して議論を促したところ、狭い単位での小さな拠点を意識した取組のアイデアが多く挙がりました。

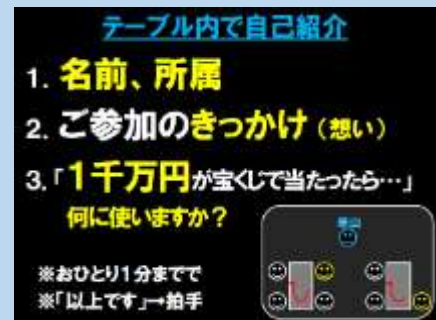


### 取組例② 自由に意見を出せる雰囲気づくり（アイスブレイク）

#### 【三重県<sup>とういん</sup>東員町】

町外からの参加者も数名いたことから、ワークショップの冒頭に、自己紹介の中で「1千万円が宝くじで当たったら…」について発表してもらい、自由に発言できる場であることを認識してもらいました。

なお、この「資金面での制約がなければ」といった仮定は、後半、資金以外の克服すべき障壁について考える材料としても活用されました。



### 取組例③ 一人の住民としての自治体職員の参加

市町村としては小さな拠点・地域運営組織の形成に着手することを決めてはいない中で、地域住民の発意で研修会を開催しました。

当日、多くの職員が参加し、“一人の住民”として住民と同じテーブルについてワークショップ形式で話をしながら考えることで、「これから、このような話し合いの場を設けていこう」との方向性が打ち出されました。





ワークショップでは、一般的に自由に思いついた意見をたくさん出してもらうことが重要ですが、今般の小さな拠点・地域運営組織の形成の実現に向けては、「じぶんごと」として捉えたうえでのアイデアや要望といった意見が求められます。

このため、単に「地域の課題や取組のアイデア」について発言してもらうだけでなく、「じぶんごと」として捉えたうえでの発言を促すプログラムや、「みんなで取り組むべきこと」を考えてもらうよう促すプログラムの工夫が重要です。

以下に事例を整理しましたので参考にしてみてください。

### 取組例① 「取組主体の明確化」による「じぶんごと」の意識化

【長崎県五島市三井楽地域】

事例紹介後、地域にあるとよい機能やサービスを「自分がしたいこと」と「誰かにしてもらいたいこと」とに分けて紙に書いてもらい、一元化しました。

高齢化率が高い事実を受け、買い物支援など“誰かにしてもらいたい”取組でも、隣に住む高齢者のためであればすぐに動ける、ということが住民の間で共有されました。



### 取組例② 集落ごとの買い物に関する課題共有

【新潟県村上市山北地域】

イベント等が中心に行われてきた各集落において、本当は大きな課題であるはずの「買い物支援」に目を向けてもらい、行動を考えてもらうため、現在の買い物状況と課題について検討するプログラムを設けました。

後期高齢者をはじめ、会場に来ていない住民の行動実態とニーズが把握できなかったため、すぐに聞き取り調査をして行商間の調整など必要な取組を展開しよう、という機運が醸成されました。

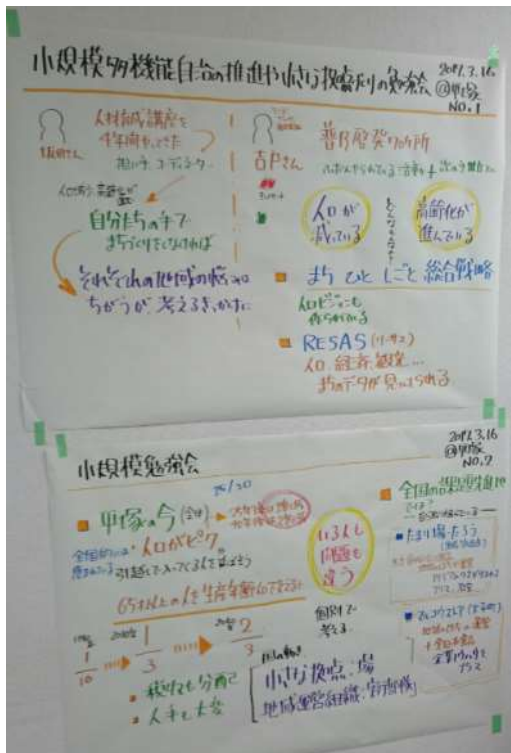


## ■ワンポイントアドバイス 議論や意見の「見える化」

ワークショップでの議論や発表の内容には、「じぶんごと化」の過程や考えた結果としての意見が含まれるため、話すだけでなく記録に残すことが重要です。

個人の意見はそれぞれで記録を取りますが、会議出席者全体でその場で共有しやすいよう、発せられた意見や議論の経過をその場で「見える化」してしまふことが有効です。中にはその成果を写真に撮り、参加しなかった人に見せたり、SNSなどで発信する参加者もいることから、記載する内容には留意しつつも、幅広く周知するツールとして、積極的に活用していくことが望まれます。

### ■ファシリテーショングラフィック（神奈川県平塚市の例）



会議の開催趣旨や講演の内容、発表の要点などを受講者が振り返れるよう、壁に模造紙を貼って、発言や発表の内容をわかりやすく構造的に書き記します。イラストや色ペンを多用して、記録とともに盛り上がる雰囲気づくりとしても利用します。

### ■発表内容の視覚化（岐阜県下呂市金山地域の例）



班ごとの発表内容について、その場でパソコンを使って要点をまとめ、参加者の理解を深め、成果の共有を促します。

## 研修に役立つ統計データを提供しているホームページ

名称	提供元	URL	概要
地域経済分析システム（RESAS : リーサス）	経済産業省・内閣府	<a href="https://resas.go.jp">https://resas.go.jp</a>	産業構造や人口動態、人の流れなどの官民ビッグデータを集約し、可視化。
政府統計の総合窓口（e-Stat）	総務省	<a href="https://www.e-stat.go.jp/">https://www.e-stat.go.jp/</a>	各府省が公表する統計データを一つにまとめ、統計データの検索をはじめとした、さまざまな機能を備えた政府統計のポータルサイト。
地図による小地域分析（j STAT MAP）	総務省	<a href="https://jstatmap.e-stat.go.jp/">https://jstatmap.e-stat.go.jp/</a>	市区町村を細分化した小地域ごとに地図と統計データを重ね合わせて表示し、利用者の保有するデータを取り込んで分析できる地理情報システムを提供。
国土交通省国土政策局 GIS ホームページ	国土交通省	<a href="http://nlftp.mlit.go.jp/">http://nlftp.mlit.go.jp/</a>	「国土数値情報」「国土画像情報」「街区レベル位置参照情報」などの GIS で利用可能なデータを提供。

その他、各都道府県や市町村の HP 上で公開されている統計データも活用できます。

(発行元) 内閣官房 まち・ひと・しごと創生本部事務局  
内閣府 地方創生推進事務局  
〒100-0014 東京都千代田区永田町 1-11-39 永田町合同庁舎  
TEL : 03-5510-2457 FAX : 03-3591-1974

平成29年10月発行